

人間らしく働いて 定年まで

— 繊維女子労働者 47年 闘いの記録 —



職場で使ったハカリ



高山植物「ヨマクサ」花言葉「誇り」

発刊にあたって

この本は東京駅から中央線の通勤電車で西に一時間ぐらい、織物の街 八王子にあった中野節絹株式会社、従業員二九〇人と、となり町の日野市豊田にあった日本節絹株式会社、従業員二五〇人（両会社とも製粉用絹糸の織物会社）で一九六二年（昭和三七年）一〇月女子労働者が中心になって労働組合をつくり、「一生にわたって働きつづける」ことを合言葉に四七年闘いつづけた実話です。当時は六〇年日米安保条約反対闘争にみられる労働運動の高揚期であり、また地方の山村や漁村から貧しいがために高校進学をあきらめた中学卒業の優秀な労働者（金のためともてはやされた）が都市部への移動が多くなった時代でした。そのころの流行歌に「ああ上野駅」という集団就職のことが歌になったものでありました。日本における女子労働者の低賃金使用捨て政策（若いときに低賃金で働かせ、結婚、出産により退社させ、子供が大きくなったらパート労働者として、また低賃金で働かせる）に真つ向から対峙し、結婚しても出産しても一生にわたり働きつづけたいと四七年間、分裂攻撃をうけながらも闘いつづけました。平均勤続年数四〜五年だった繊維工場を慣習を打ち破り二四人もの労働者が勤続四四年、六〇歳の定年まで階級的、民主的労働組合を守り働きつづけたことは、日本の労働運動史でもまれな存在ではないでしょうか。しかも民間企業で中卒女子労働者の闘いです。いま究極の労働者使用捨て政策である日雇い派遣は、女子労働者使用捨て政策にあきたらず全労働者にその使用捨て政策をもちこんだ結果です。資本側はその政策を貫徹するために、かならず労働者の要求にもとづいて実施しているように装います。まえに書いた女子労働者の使用捨て政策も（結婚し子供を生み育て、旦那さんの身のまわりの世話をすることが女性の幸せだ）これが社会全体の考えのようにマスメディアを使い宣伝してきました。また今の日雇い派遣政策も労働者が望んでいるかのように装い、一方で正社員になれないのは本人に問題があるかのよう思い込ませ、資本側の思いどおりの低賃金労働者をつくり出しています。そのためには政府を動かす法律まで作らせて実行しています。

私たちの四七年の闘いは、資本側の低賃金政策を実施するための、ものの見方考え方と対決し、働く者が幸せになるための、ものの方考え方を追求しつづけた四七年間でした。残念ながら定年という「合法的解雇」を打ち破ることができず、二〇〇九年八月に組合員二名の定年をもって日本中野節絹労働組合は幕を閉じます。

この闘いの記念誌は、今日、資本側の低賃金政策に苦しんでいる労働者の参考になり激励になればと思いい出版することにしました。

資本主義社会は弱い立場の人に負担を押し付けてきます。そのことを許さない闘いを組織することがもつとも大切であることを痛感した四七年間でした。組合結成から指導していただいた、元全労連繊維被服産業労組委員長 故 佐藤洋輔氏をはじめ、ご支援していただいた労働組合、労働者、地域の進歩的諸団体の皆様に心より御礼申し上げます。

【目次】

*	発刊にあたって	8
*	「女工」から女子労働者へ 組合結成当時	8
*	攻撃がより強い団結を生む 会社合併・分裂攻撃	12
*	一日十円のこと十日間のスト 権利を守るたたかい	15
*	組織を守る闘いのルーツ 八王子工場閉鎖反対闘争	17
*	分裂攻撃一周年に際しての声明	21
*	母親のしめだし反対 零才保育所設置闘争	23
*	組合の零才児実力保育、トップバッター 小林幸子さんの感想	26
*	二二七波のストから裁判へ 生理休暇を守る闘い	28
*	生理休暇裁判の終結にあたっての支援御礼	34
*	健康までは売っていない 職業病認定闘争	38
*	一六年間の闘いの成果 男女賃金差別是正	39
*	一番がんばった人だったのに 鷹取君江さんの死を悼む	42
*	「女工」の宿命を破って二〇年 組合結成二〇周年記念集会	44
*	組合員の座談会 「二〇年の思い出」	45
*	組合主催の「お父ちゃん会議」 家族の理解と協力を求めて	65
*	二〇周年記念集会での祝辞	69
	節絹労組をたたえる 繊維労連東京都支部委員長 佐藤洋輔	69
*	労働戦線統一問題	72
*	労働運動が激動 ワーキングプアの土台が作られた	73
*	全労連結成される	77
*	平和と民主主義を守る闘い 闘いの原点は学習	81
*	革新市政を守り発展させるための闘い	84
*	委員長交替と専従者協定終結	88
*	経済闘争と職場の動き	92
*	ありがとうございます	94
*	仲間とともに、人間らしさもとめて三〇年 組合結成三〇周年記念集会	95

*	メッセージ	
*	好循環を生んだゆとりとたたかい	全労連繊維被服産業労組委員長 佐藤洋輔
	(祝辞)	
*	憲法を市政に生かして二〇年	
	自治体こそ可能性の宝庫	日野市長 森田喜美男
*	感激で涙が止まらない	新婦人日野支部 大高房子
*	ご挨拶を頂いた皆さん (敬称略)	
*	現場労働者から都議会議員に	
*	ふるいぎぬ労組の闘いの中から	村松みえ子
*	関係者の皆さんと粘り強く取り組み実現できた事	
*	賃下げなしの六〇歳定年実現	
*	成果主義賃金導入される	
*	世間並みの退職金を	
*	佐藤委員長 三十九年間	ありがとうございます
*	お別れのことば	三鷹在住 荒川賢一
*	佐藤 洋輔さんへの弔辞	あなたの後輩にして戦友 全労連副議長 鈴木彰
*	弔電 (順不同)	
*	全労連繊維から繊維産労へ	
*	唯一の男子組合員が定年退職	同時に会社は創立以来七〇年の篩絹生産から撤退
*	豊田工場での織物生産中止について	
*	長い間ありがとうございました	
*	組合員二人でも全社員の雇用を約束させる	
136		
134		
133		
130		
127		
126		
123		
121		
118		
116		
114		
111		
109		
107		
105		
104		
102		
99		
97		